

【研究課題】

行政解剖例における虚血性心疾患死亡の疫学調査

研究期間：2018年6月29日～2023年3月31日

この研究では、虚血性心疾患症例の患者背景や病理組織学的特徴を調査した。研究期間中に心筋梗塞左室自由壁破裂で死亡した 303 例のうち、75%は男性であり、60-69 歳の男性が最も多く、全体の 32%を占めていた。一般に、心筋梗塞破裂は高齢女性に多いと言われており、当院の結果は、異状死として扱われ、行政解剖が行われる症例が、60-69 歳の男性に多い影響があると考えられた。女性では、80 歳以上の高齢者が占める割合が最も多かった。単身生活者は全体で 43%であったが、50-69 歳の男性では、半数以上を占めており、女性では、高齢になるほど単身生活者の割合が増える傾向にあった。全体に喫煙率が 54%と高く、26%は肥満(BMI \geq 25)であり、これらが大きなリスクと考えられた。心筋梗塞の部位に差はなかったが、心筋梗塞発症から 5 日以内に 76%が破裂をきたしていると推定された。

異状死として扱われる症例の多くは壮年男性であり、その影響を含めて、結果を解釈する必要はあるが、さらなる調査・研究が必要と考えられた。